

踏み跡 <My Mountains>

道志	猿橋から神楽尾根経由九鬼山へ	No.148
----	----------------	--------

昭和45年3月21日

道志山塊への何度かの山行による情報収集が進んで、いよいよ我ら「XX山岳同志会」の道なき山への一歩がスタートした。(同行は恩田と石関)

猿橋駅から南へ小尾根をたどり九鬼山に達しようという計画だが、正式な登山コースがあるわけではない。頼りになるのは四か月前に逆コースを偵察した恩田の記録と、その時に付けてくれた僅かな赤布のみである。猿橋駅を8時55分に出発。問題の尾根の取り付き点は、甲府寄りに少し歩いた右手の殿上橋。橋の西側から南へ小尾根の小さな刈り込みの中に入る。古い5万分の一の地形図によれば、このあたりから沢沿いに山を越える道があることになっているが、そんなものは全く見当たらない。

673.9mの神楽山までは高度差も300mほどあり、かなりのアルバイトである。しかも現在位置の確認が難しい藪山。

神楽山まで一時間半ほどでたどり着くことができた。富士の眺めが素晴らしい。藪の乾いた音と執拗な体へのまとわりつきは不快な存在ではあるが、道志では一日中つきあう覚悟をしておかなければいけない。

神楽山で方向を西南西に変えてここからは尾根筋に沿ったルート。晴れた空に背後の百蔵山や南大菩薩の山々が近い。

御前山の岩峰でかなりのんびりした昼食。12時50分、馬立山をさして南西へ駒を進める。

こんなところに? と思うような立派な岩峰を二度越えて、比較的起伏が少ないこのピリオドは40分。

さらに高度を上げて762mの馬立山。九鬼山はもう札金峠のくびれをはさんで目の前になったが、想像以上の大きさである。やはり1,000m近い高さの山には一人前の迫力がある。

馬立山の肩より南へ札金峠、さらに二時間の最後の登りで本日の終着点の九鬼山に到着、時刻は16時10分。

当初の予定では、九鬼山に14時には着いて高畑山まで進んでおくつもりだったが、もう16時を過ぎてしまったので今日の行動はこれで中止。

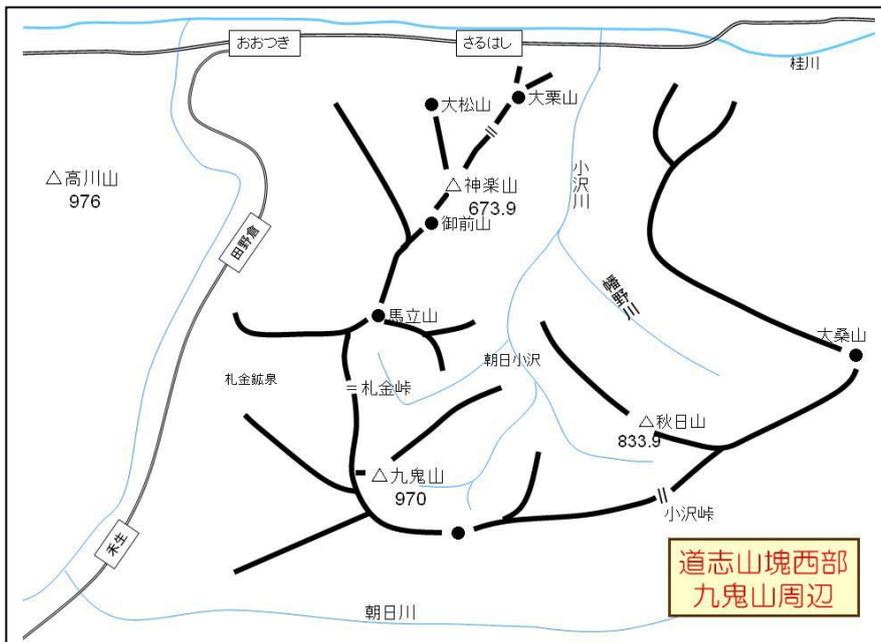
970mの三角点の脇にツェルトを張り、食事の支度。支度をしながら神楽山でスケッチした富士山を仕上げしてみた。(右画像)



昭和45年3月22日

天気は曇り、何も見えず。

予定を大幅に変更して高畑山への縦走は中止し、



ダイレクト尾根を西に禾生へ下ることにした。

標高差500mはあるが、昨日のルートに比べれば「道がある」という点で気が楽だ。

国道まで下る頃には重く垂れこめた雲の中から粉雪が舞い始めて、計画変更が正しかったことを喜び合った。禾生駅は、ストーブに群がる列車待ちのお客でいっぱいになっていた。

以上